

1. 論文の構成 ※英文論文の執筆要領は、本学会ホームページ上の Submission Instructions を参照下さい。

論文の構成は、原則として表 1 の通りとします。ただし、「論壇」「総説」「実践報告」「特別報告」「コメンタリー」「その他」の原稿の本文はこれにしたがう必要はありません。「実践報告」の本文の構成は、表 2 を参照下さい。

和文抄録は 600 字以内で作成して下さい。「システムティックレビュー」「原著」および「短報」の抄録は、目的・方法・結果・結論の項目で、内容をまとめて下さい。ただし、「総説」「実践報告」「特別報告」はこれに従う必要はありません。「実践報告」は、本文にあわせて、目的・事業／活動内容・事業／活動評価・今後の課題というまとめ方でも構いません。「論壇」「コメンタリー」「その他」は、抄録は必要ありません。また、「コメンタリー」「その他」の文献は、5 つまでとします。

英文抄録は採用の通知を受けた後、プロによる英文校正を受けてから、最終原稿とともに速やかに編集委員会事務局に提出して下さい。英文抄録は「総説」「システムティックレビュー」「原著」「短報」「実践報告」「特別報告」に必要であり、字数制限は 250 words 以内です。ただし、英文タイトル、著者英語名はすべての原稿において必要です。

本文内には「利益相反」の項目を設け、全著者の本原稿の内容に関連する利益相反状態の開示をお願いします。「関連する」とは本原稿の内容によって営利または非営利の第三者の利害に影響を及ぼす可能性があるあらゆる関係を意味します。なお、利益相反の開示は必ずしもバイアスの存在を示すものではありません。開示すべきかどうか疑問に思ふ場合は開示することが望ましいです。

表 1 論文の構成

項 目	内 容
原稿の種類	
タイトル	短く、しかも内容を表して下さい。
著者名	著者全員の氏名。
所属名	著者全員の所属（右上付き文字で*1,*2 を使い、著者名と対応させて下さい）。
抄録	600 字以内（目的・方法・結果・結論でまとめる。ただし、実践報告は、本文にあわせて、目的・事業／活動内容・事業／活動評価・今後の課題というまとめ方でもよい）。
キーワード	3～5 個（原則として MeSH キーワードを使用）。
連絡先	責任著者の住所・氏名のほか、希望により電話・FAX・E-mail も掲載可。

ランニングタイトル	主タイトルが 25 字を超える場合は、25 字以内のランニングタイトル。
ページ数	表紙から文献までの、1 ページ 2,100 字である場合の総頁数。
図、表、写真数	図、表、写真、それぞれについての枚数。
タイトルページ	タイトル、抄録、キーワード、ページ数、図、表、写真数のみを記したページ。
本文	I 緒言(はじめに, など) 背景と目的。
	II 方法 (対象と方法, など) 対象と方法. 倫理的配慮に関しても記述して下さい。
	III 結果 結果は, 図・表などを使いわかりやすく示して下さい。
	IV 考察 論理的に矛盾や飛躍がないようまとめて下さい。
	V 結論(結語, おわりに, など) 結論は, 研究結果から導かれる特徴的で具体的な結論として下さい。
	謝辞 (必要な場合)
利益相反	利益相反に該当しない場合でも, その旨を記載して下さい。(例: 利益相反に相当する事項はない)
文献	執筆要領の「2. 原稿作成上の注意」にしたがい, 引用順に示して下さい。
匿名化した本文	謝辞や助成金情報, 倫理委員会名など, 本文のうち投稿者が特定される可能性がある情報の部分を黒塗り, あるいは●などの記号に置き換えたもの。
図・表・写真	1 頁に 1 枚ずつ作成して下さい。図は, 原則として, そのまま掲載できる明瞭なものとして下さい (タイトルは, 図と写真は下, 表は上に掲載。表では縦罫線を使いません)。
補足資料 (電子付録)	補足資料は, 読者が論文を理解する上で不可欠ではないが付加的な資料として提供される。補足資料は, データ, テキスト, 音声, 動画ファイルなどで構成され, 受理された論文と共にオンラインで公開される。補足資料も査読の対象となるため, 著者は原稿提出の際には最終版を提出しなければならない。原稿受理後は, 著者は補足資料に変更を加えることはできない。

※「総説」「システマティックレビュー」「原著」「短報」「実践報告」「特別報告」は, 採用の通知を受けた後, プロによる英文校正を受けてから, 最終原稿とともに英文抄録を提出して下さい。

英文抄録	英文タイトル	タイトルの英訳（文頭の単語のみ大文字使用）。
	著者英語名	著者全員の氏名の英文。
	所属英語名	著者全員の所属の英文（右上付き文字で*1,*2を使い、著者名と対応させて下さい）。
	抄録	和文抄録の英訳。英文 250 words 以内。
チェックリスト 投稿票 （投稿サイトを使用しない場合）	キーワード	キーワードの英訳（原則として小文字使用）。
		投稿日、原稿種類、タイトル、英文タイトル、著者名、著者英語名、責任著者の連絡先（住所、氏名、電話、FAX、E-mail）を、A4 判 1 枚に記載して下さい。（様式はホームページよりダウンロードすることができます）

表 2 「実践報告」の本文の構成

本文	I 目的	事業や実践活動の目的。
	II 事業／活動内容	事業や実践活動内容の説明、倫理的配慮に関しても記述して下さい。
	III 事業／活動評価	事業や実践活動の結果やそこから得られた成果等。
	IV 今後の課題	実践の結果、次に行う際の注意点や今後似たような活動をする人々へのアドバイス等。
	謝辞	（必要な場合）。
	利益相反	利益相反に該当しない場合でも、その旨を記載して下さい。（例：利益相反に相当する事項はない）
	文献	執筆要領の「2. 原稿作成上の注意」にしたがい、引用順に示して下さい。

2. 原稿作成上の注意

- 1) 本文は、A4 判横書き（用紙は縦）で余白を上下 35 ミリ、左右各 40 ミリ、1 行あたりの文字数を 30 字、1 ページあたりの行数を 35 行に設定して下さい。執筆にあたって和文原稿は明朝体、11 ポイントで作成して下さい（本学会ホームページより、フォーマットのダウンロード可）。英文抄録はダブルスペース、フォントは Times New Roman、12 ポイントで作成して下さい。
- 2) 表紙から文献まで通し頁および通し行番号をつけて下さい。
- 3) 本文中の文尾では「…考え（られ）る。」「…考え（られ）た。」という表現は避けて下さい。
- 4) 「わが国」という表現は避け、国名を明記して下さい。
- 5) 暦年は原則として西暦で記載して下さい。
- 6) 英文は、必ず英文校正業者か英語が母国語の専門家による校閲を受けて下さい。
- 7) 数字は算用数字を用い、数字・英字は半角として下さい。

- 8) 句読点は、全角のピリオド「.」コンマ「,」を用いて下さい。
 - 9) かぎ括弧、丸括弧が連続する場合は、読点「,」を打たないでください。（例：この分析から得られたキーワードは「正確性」「信頼性」「重要性」であった）
 - 10) 抄録および本文中には、研究デザインを明記してください。アクションリサーチの場合もその旨を抄録および本文中に明記してください。
 - 11) 対象者数を表す N および n の表記は“American Medical Association Manual of Style”に従います。研究対象のサンプルサイズ全てを表すときに N を用い、サブグループのサイズを表すときに n を用いて下さい。（例：過去 1 か月に緊急入院した患者を分析対象とした（N=127）ところ、狭心症罹患者が最も多かった（n=38）。）
 - 12) 有意確率を表す記号は“American Medical Association Manual of Style”に従います。「P」とし大文字斜体で標記し、前後は半角スペースをおいて下さい。また表中のタイトル部分では、「P 値」あるいは「P value」とせずに「P」とだけ示して下さい。
 - 13) 和文論文で統計学的有意検定の種類を示すときはできる限り日本語あるいはカタカナで示して下さい。（例：t 検定、マン・ホイットニーの U 検定）
 - 14) 図、表、写真は、1 頁に 1 つとし、図 1、表 1、写真 1 などの通し番号をつけて下さい。また、本文の欄外に、それぞれの挿入位置を指定して下さい。
 - 15) 画像や写真は 300dpi 以上の解像度のものを用いて下さい。
 - 16) 図や表を引用・転載した場合には、投稿前に著作権者の許諾を得て、図や表の下に出典を明示して下さい。
 - 17) 本文中での文献引用は、引用順に、右上付き文字を用い、¹⁾あるいは^{1),1,2),2,5-7)}などの番号で示して下さい。またコンマやピリオドがある時はその前に数字を表記して下さい。（例：…である^{1, 2)}。）
 - 18) 著者らの研究成果を本文中に引用し、さらにその主体を本文中に記載する場合、「筆者らは…」「著者らの研究によると…」などとは記載せず、「〇〇らは…」「〇〇らによると…」など姓を記載してください。
 - 19) 文献の記載は下記のとおりとします。
 - (1) 著者などが複数の場合は、3 人目までは全員を記載し、4 人目以降は省略して「〇〇〇〇，他。」または「XXXXXXXX, et al.」として下さい。
 - (2) 英文雑誌名は、MEDLINEなどを参考に、定められた雑誌略称を使って下さい。和文雑誌名は、略記せずに記載下さい。
 - (3) 引用文献記載において、コロンやセミコロンの後は半角スペースを空け、ハイフンも半角を使って下さい。なお日本語文献は全角のコロン、セミコロンのスペースなしとして下さい。
 - (4) 文献リストの英語文献では文献名、書籍名は冒頭の単語と固有名詞のみ大文字とし、あとは小文字として下さい。（例）×Health Behavior, ○Health behavior.
 - (5) 文献リストの英語文献タイトルで、「: (コロン)」のあとは小文字ではじめて下さい。（例）Effect of advocacy on healthy food eating: a cross-sectional study.
- ① 雑誌の場合
- ・ 宮坂忠夫. 健康教育の変遷・現状・今後の課題. 保健の科学. 2000 ; 42 : 508-513.
 - ・ Yoshimura N, Jimba M, Poudel KC, et al. Health promoting schools in urban, semi-urban and rural

Lao PDR. Health Promot Int. 2009; 24: 166-176.

- ・ (オンラインジャーナルの場合はページ範囲ではなく論文番号で良い) Togari T, Yonekura Y. A Japanese version of the Pearlin and Schooler's sense of mastery scale. Springer Plus. 2015; 4: 399.

② 単行書の場合

- ・ 松下 祐. 健康問題の構造とその実態の把握. 久常節子, 島内節編. 健康教育と学習. 東京: 医学書院; 1994. 14-54.
- ・ Green LW, Kreuter MW, Deeds SG, et al. Health education planning. Palo Alto: Mayfield Publishing; 1980. 18-32.

③ 訳書の場合

- ・ グリーン LW, クロイター MW. 神馬征峰訳. 実践ヘルスプロモーション—PRECEDE-PROCEED モデルによる企画と評価. 東京: 医学書院; 2005. 10-18.

④ 同一文献の別の頁を引用する場合

- ・ 川田智恵子. 前掲書 3): 52-64.

- ⑤ ホームページ, インターネットウェブサイトからの引用については引用内容が明確に記載されている URL を示し, アクセスした年月日を () 内に記載します. 書籍とウェブサイト双方に同一の引用文献がある場合は, 書籍を優先引用文献とします.

(ウェブサイトから引用する場合)

- ・ 厚生労働省. 健康日本 21. http://www1.mhlw.go.jp/topics/kenko21_11/sOf.html (2008 年 12 月 30 日にアクセス).

- 20) 統計解析の記述の方法については「統計データ・記載方法等に関するガイドライン」(本学会ホームページよりダウンロード可) に基づき定められた方法で記載して下さい.
- 21) 査読後の注意, 対応については, 日本健康教育学会ウェブサイトの論文 Q&A をご覧ください.
- 22) 学会主催セミナー等を含む学会活動に関する報告を執筆する場合には, タイトルまたはサブタイトルに「〇〇研究会〇〇年度活動報告」などをつけ, 学会活動の報告であることがわかるようにして下さい. また, 「利益相反」のセクションの前に「追記」セクションを設け「本稿は日本健康教育学会〇〇研究会の〇〇年度の活動内容を報告したものである」等の説明を記載して下さい.

附則: 1. 本執筆要領の改正については, 編集委員会の議を経て行い, 理事会に報告する.

2025 年 3 月 31 日改正